

枝川スタッフが選んだおすすめ本

枝川の本棚

★10月のピックアップ★

『本ってだいたいこうなってますよね?』

西岡裕二/著 技術評論社

ISBN:978-4-297-15688-6



書店や図書館の棚を見ていると、一口に「本」と言っても様々な種類や大きさ、装丁のものがあることに気づかされます。文庫本や絵本、雑誌や辞書など本を表す言葉もたくさんあり、私たちの手に届くまでの過程もそれぞれ異なります。

本書では「本」という存在そのものに注目し、その種類や構造はもちろん、そこに印刷されている文字や使われている紙にもスポットライトが当てられています。

「本」をより深く知るための本をぜひ手に取ってみてください。

一般書



『海をわたる言葉』

クォンナミ/著、村井理子/著 集英社

ISBN:978-4-08-788125-7

本書は日本と韓国の翻訳家ふたりの往復書簡です。

翻訳家でエッセイスト、愛犬との暮らし、親の介護など、共感するところが多すぎて「前世は双子説」まで飛び出します。会ったことのないふたりですが、互いが互いのファンであることが文章から伝わってきて、メールを送る前から返信を待つ姿に、読んでいだけで楽しい気持ちになります。どのような状況でも前に進む様子と優しい言葉に背中を押してもらえる作品です。



『東大麻雀』

新倉和花/著 西岡孝誠/監修 笠間書院

ISBN: 978-4-305-71081-9

麻雀とは不完全な情報の中でどう戦うかを考え、運を味方につけて最善を尽くすゲームです。東大法学部を卒業し、現在は麻雀プロとして活躍する著者が、期待値やリスク管理をイメージする構想力、観察力などの視点から麻雀で培った勝つための知恵を伝授します。

先行きの見えない時代の中で、情報をどのようにして選ぶのが良いのか、現代社会を生き抜くためのヒントを与えてくれる内容となっています。





児童書

『ベンチのうれしい』

マージョリー・ワインマン・シャーマット/作

こみやゆうやく はやかわよしお え いわなみしよてん
小宮由/訳 早川世詩男/絵 岩波書店

ISBN: 978-4-00-116060-4

ある公園の古いベンチには、夜になると男の子と女の子の
うれしいベンジャミンとジャスミンがやってきます。たいくつ
でしかたがない二人は、ベンチにきた人たちの「お話ごっこ」
をはじめます。おこりんぼの話、めでたしめでたしの話など、
ちょっぴりふしぎで楽しいお話がたくさんでてきます。

今夜はもうおわりにしようと思った時、二人がさいごに思い
出したお話とは…？ 小学3～4年生向け



『ありのこりーこ』

あきやま こ え むぎた ぶん
秋山あゆ子/絵 麦田あつこ/文 ブロンズ新社

ISBN: 978-4-89309-754-5

ありのこりーこのおうちでは、赤ちゃんがたくさん生まれて
朝から大いそがし。みんなにかまってもらえないりーこはさ
んぽに出かけます。あぶらむしやみつばちとあそび、くもじい
には本を読んでもらったり。みんなからたくさんおみやげを
もらっておうちにかえると…。

虫の体のつくりやくらしかたもくわしくかいてあり、虫た
ちがすごす小さな世界をのぞいているようなおはなしです。

3～5歳向け



YA(ヤングアダルト)

『虎と月』

柳広司/著 KADOKAWA

ISBN: 978-4-04-116663-5



「父は虎になった」そう聞かされていた少年のもとに、ある人から
手紙が届きます。そこには父親・李徴の消息をたどる手がかりが…。
父はどこにいるのか、虎になるとはどういうことなのか。14歳の少
年は、たった一人で謎を解く旅に出かけます。

国語の教科書でおなじみの、中島敦『山月記』をもとにした青春ミ
ステリーです。特にラストの伏線回収はお見事！ぜひ、『山月記』と
セットで楽しみください。

中学生以上



枝川図書サービスコーナー

江東区枝川 3-6-16 (枝川区民館 1 階) 【TEL・FAX】 03-3647-6860

【開館時間】 9 時～17 時 【休館日】 月曜日・第 3 金曜日・祝日

2026 年 10 月発行